

令和6年度 学校努力点について

名古屋市立はとり中学校

1 はとり中学校の教育目標

- 礼儀を重んじ、「思いやりの心」をもち、自主的に行動できる生徒の育成
- 常に現実を見つめ、創意工夫して環境の改善をし、社会に適応できる生徒の育成
- 勤労を尊び、忍耐力と責任感を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成

2 学校努力点の設定について

校訓

豊かさ	たくましさ
-----	-------

(1) 努力点

心豊かな生徒の育成 ～学級での居場所づくり・絆づくりを通して～

(2) 努力点設定の理由

① これまでの本校の取り組み

本校では、平成30年度から令和4年度まで「心豊かな生徒の育成」を学校努力点として、「教科の授業」「道德の時間」「学校行事」の三つの場面において、他者との関わりを意図的に設定して実践を進めてきた。主に「道德の時間」に焦点を当て、全校で「人との関わり方を考える道德の授業」に取り組み、構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの要素を取り入れた授業を定期的に行った。また、他者の立場や気持ちを推論する場面を設けて、二者択一を始めとする判断や判断理由を考えたり、共有したりする活動を位置付けて、道德の態度や判断力を高めることを目指した。そして、「教科の授業」についても、「授業力向上期間」を設定し、主に話し合いが行われる授業を教員が相互に参観して、手立てや工夫を交流した。

② これまでの成果と課題

多くの生徒は、規則やルールを守り、どの行事にも熱心に取り組むことができた。また、落ち着いて授業に臨み、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を参考にしたりする姿が見られた。教員と生徒との信頼関係も築きつつある。

しかし、教員から指示されたことや教えられたことをきちんと受け入れようとする素直さがある反面、生徒自身が考え、意見を出し合いながら練り上げ、進めていくような自主性や主体性が十分に育っていない。

また、全国的な傾向ではあるが、コロナ禍以降、様々な理由で学校から足が遠のいている生徒が増えている。

そこで今年度は学級での居場所作り、絆作りを通じた実践で心豊かな生徒の育成を目指していきたい。

3 研究の重点

(1) 目指す子ども像

自分の考えをしっかりとち、他者の考えを尊重しながら交流する中で、進んで物事に取り組む態度を身に付け、豊かな心で生活しようとする生徒

(2) 手だて

本年度は「学級経営における実践」を重点項目とする。手立てを進めるにあたって、各学年から2名程度通年で実践に取り組む職員を選出。選出される職員は本校が初任校である若手職員だけではなく、経験豊富な中堅からベテランの職員も含まれるのが望ましい。

また取り組む実践については、行事などにむけた比較的大きなものだけではなく日常の生徒に対する声のかけ方や、生活ノートの返事の手書きなど普段担任として心がけている細かなものでもよい。以下に実践例を記す。

＜実践例＞

- ①体育大会に向けた取り組み ②合唱コンクールに向けた取り組み
- ③係指導について ④清掃指導について ⑤学級レクの実践例
- ⑥普段の声かけで心がけていること ⑦学級通信の紹介
- ⑧生活ノートの返事で心がけていること ⑨不登校（傾向）生徒への取り組み
- ⑩学級目標の作成にむけた取り組み

(3) 研究計画

＜1学期＞

4月…各学年で2名程度実践に取り組む職員を選出。2名を超えてもかまわない。
中間テスト期間…意見交換会（30分程度）。実践に取り組む職員で、お互いの学級経営について意見交換をし、中間報告に向けた実践計画を固めていく。資料は特に用意しない。（意見交換会については必要に応じて随時行う。）

＜2学期＞

10月…（現職教育）努力点中間報告。ここまでの実践報告を行う。

中間テスト期間…意見交換会（30分程度）。中間報告に対して発表者で互いにフィードバックしあう。最終報告に向けた実践計画を固めていく。

＜3学期＞

2月…（現職教育）実践・研究のまとめ。

3月…来年度に向けて。実践・研究のまとめに対して発表者で互いにフィードバックしあう。来年度に向けた意見集約。

※太字が全体会

